



「秋の不動の滝」写真提供：塙 光雄氏（ピアサポート茨城）

ご挨拶

副会長 松井 義博

仲秋の候 流れる雲に秋の訪れが感じられる昨今ですが、会員の皆様にはご健勝の事とお喜び申し上げます。茨城よろこびの会の今期の活動は、世界的にパンデミックを引き起こしている新型コロナウイルス(COVID-19)の流行から、感染拡大防止対策で3密となる集会の開催自粛に伴い、当初計画した行事は全て休止しているところです。会員によるがん体験談の発表、がん患者ピアサポート相談及びサロンの活動は、厚労省からのウイルス感染予防対策「新しい生活様式」を遵守しております。

本誌では、新型コロナウイルスの流行の経過と今後の対策について、国等からの情報を基に報告します。

【感染拡大及び対策の経過】

最初の感染拡大は、2020年4月をピークにしたもので、国は4月8日「緊急事態宣言」を発表しました。そして宣言解除後、6月から感染者は再び増え始め、2つの大きな感染拡大を経験し、今も続いています。専門家らでつくる政府の分科会では、「7月末がピークのように見える」と発表されています。

ウイルスは、ヒトからヒトに感染を繰り返す間、少しずつ遺伝子情報が変化します。武漢から入ってきたウイルスは、3月中旬頃以降少なくなり、その後、武漢からヨーロッパに伝わったウイルスが、日本に入ってきたと推移されています。これは6月中旬を境にウイルスの遺伝情報に差があるとのことでした。

【感染者の拡大】

現在、新型コロナウイルス感染者の大半は軽症あるいは無症状のため、健康な人の中には、潜在的に感染している人が多数いるとみられています。

【今後の感染予防対策】

感染拡大を出来るだけ防ぐため3密（密閉・密集・密接）の回避や、手洗い、換気など基本的な対策の重要性は変わりません。更に、海外からウイルスを入れないこと、また、入国の際には、ウイルス検査を徹底するなど、水際での対策を着実に行うことが必要です。国内では、感染が広がっている地域や業種などを限定して移動などの自粛対策をとることも必要と考えられます。また、ウイルスの遺伝子情報の分析結果を対策に活用することも必要だと言われています。

【医療への影響】

重症の患者数は、今も増え続けていて、9月30日は、全国で151人にのぼっています。重症、あるいは亡くなる人達の人数のピークは、感染者数のピークから2週間ほど遅れてくると言われています。感染者を減らせなければ、この増加傾向に歯止めをかけるのは難しくなります。

【今後の感染の推移】

第2波が収まったとしても、これまでの感染症の経験から、感染者の数は、再び増減を繰り返すと言われています。冬に向かいインフルエンザの流行と重なり医療機関の負担増となることが予測されます。

【感染防止の3つの基本】

① 身体的距離の確保 ② マスクの着用 ③ 手洗い

（詳しくは、厚生労働省 HP をご確認ください）

ご自身や、周りの方、そして地域を感染拡大から守るため、それぞれの日常生活において、ご自身の生活に合った「新しい生活様式」を実践していきましょう。



引っ越し狂騒曲

会員 田口 順子

今年4月に43年間住んだ家を取り壊すこととなり、現在の地に引っ越して来ました。7LDKの家屋、庭、お花の教室、物置4棟を取り壊す一大イベントでした。

私は、買い物は好きですが、片付けが大の苦手なため、物があふれ整理整頓が出来ません。その私が片付けをするのですから、タ・イ・ヘ・ン！

年も明け、まずはお花教室から始める事とし我が家を良く知っている友人と生徒さんが片付けを請け負ってくれることになりました。週に2日を片付けに予定し3ヶ月、教室の資材・花器等の荷物はダンボール70箱にもなりました。

次は自宅です。こちらは妹がコロナで休学中の子供達を連れて3人で、毎日来てくれました。姪が3・4月の片付けスケジュール表を作成してくれ、それを元に作業進めることにしました。自分では高くて届かない押入れの天袋は、甥が荷物を出してくれましたが、出てくる、出てくる！



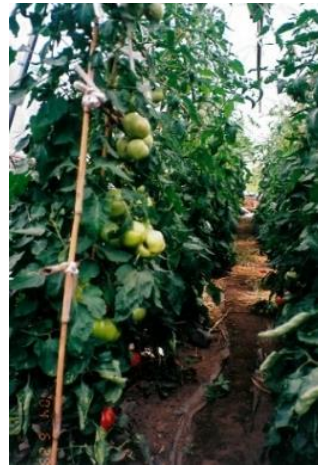
最後は物置です。頂いたギフト類が店の棚の様にきちんと重なって使えものは、知人にあげたり、リサイクルショップに持って行ったりと妹は毎日トランクいっぱいの荷物をお持ち帰りです。賞味期限切れのジュース、油、醤油、お酒に呆れてしまうや、笑ってしまうや……。タオル類は何百本、新品の折りたたみ傘が25本、シーツ、掛け布団等々。私たち姉妹の何か足しになればと祖母や母が保管してくれていたのだと、しみじみ有り難みを感じ意義のある引っ越しとなりました。皆さんお手伝い有り難う！新天地で頑張ります。

農業を振り返って

会員 浜崎 昭一

退職してから妻と2人で素人農業を23年間、9アール（270坪）を農業用機械も使わないで耕しています。周囲は農家が多く野良着も気になりません。農家の人達の間では、「農家は毎年が1年生」と言う格言があります。

地球の温暖化も進み長年の経験を経て、時期をずらして種まきをしています。昔に比べると作物の成長も早くなり、草刈りの回数も増えました。暑さから体を守るため、夏場は早朝から、午後は夕方から畑に行きます。今年の畑のテーマは「連作障害（連作すると良い野菜が出来ないこと）」です。ビニールハウス2棟（長さ10m）に毎年トマトを栽培していますが、連作の影響で成長が悪く収穫も減っていました。これを解決するにはハウス内の土の交換しかありません。春先、5日かけて土の交換が完了し、結果は作柄も上々、目的を達成しました。他にも約20種類の作物を栽培しており、収穫した作物は近所へお裾分けしています。



畑の周囲は、キジ、カラス、ハト、トビ、ツバメ、ヒバリが鳴き、茨城空港へ着陸する飛行機が低空で通過します。夏の作業は「蚊」に悩まされ、特に縞状の蚊（ヒトスジシマカ）は強敵です。ボーフラ除けに水桶に食用油を利用していますが、周囲は畑と林で防ぎようがありません。腰に蚊取り線香を付けての作業です。そこで蚊取り線香について少し調べてみました。金長の創業者上山 英一郎氏が、明治23年に棒状蚊取



り線香を世界で初めて開発し、長さ20cm直立3本立てで燃焼時間は40分。その後も試行錯誤を重ね、1895年に蛇のとぐろを見て今の渦巻き型の形状（6時間まで燃焼時間を延長）を考案し、昭和15年増産されました。主成分は、除虫菊の「ピレトリン」です。戦前まで米国は日本から輸入していましたが、大戦により輸入が難しくなったため、東南アジアで除虫菊の栽培に成功し、スプレー式に改良するなど、マラリアから兵士を守りました。一方日本は元祖ながらその効力を生かせず多くの兵士をマラリアで失った悲しい事実があります。

私も今年86歳。腰も曲がり、手押し車と杖の生活。しかし畑が私を待っている気がして、コロナに負けず頑張りたいと思います。

雑感 ～ コロナの時代に暮らして ～

会員 黒沢 明実

明治生まれの父は、衛生面で異常な程の潔癖症の人でした。外出時には常に濡れたハンカチを携帯、ドアノブや手すり等、素手では触れない程の気の遣いよう。当時、子供の私は「男なのに～」と、共感が出来ず冷やかな思いでした。（私といえばその真逆。どんな悪い環境でも対応可。まさに父は私の反面教師でした。）今はどうでしょう。それが当たり前の時代になりましたね。あの時からもう70年も経ちました。（70年も前の話です。）近代的な建物の洗面所には、水だけではなく石鹸までもセンサーで自動に出てきます。そしてトイレの蓋は自動開閉。「こんな光景を見たら父はどんなに感激したかしらね」と時々姉と話すのです。

小さい頃育った家には大きな薬専用のタンスがありました。そこには、漢方薬は無く西洋の薬がいっぱいでした。父は新薬が出るとすぐに薬品会社にサンプルを取り寄せておりました。疑問があれば医療機関にも問い合わせをし、納得のゆくまで質問をしていたのです。今も残っている医師からの返信には、石川 七郎先生（7代目 国立がんセンター総長）や、黒川 利雄先生（宮城県立がんセンター長。がん検診の創始者）の名もありました。コロナを知らずに逝った父は幸せだったのかも知れません。

コーヒーの大好きな父でした。



会報「よろこび 100 号」の原稿を募集します！

会報よろこび 100 号の原稿を募集しております。

<テーマ>

- ・私の生きがい ・私の宝物 ・私の大切なもの
- ・私の人生最大のピンチ ・私の人生最大のよろこび
- ・がん体験談 ・とっておきのワンシーン
- ・絵手紙 ・エッセイ ・短歌 ・俳句 ・写真 など



<原稿送付先>

〒311-4145

水戸市双葉台 2-32-4

飯田 則子 宛

🌸 お便りをお待ちしています 🌸



行事予定

- 11 月 12 日 (木) 10:00～ 水戸市福祉ボランティア会館 (ミオス) メンズピア「定例会」
- 〃 10:00～ 〃 レディスピア県央「定例会」
- 〃 13:00～ しもだて地域交流センター (アルテオ) レディスピア県西「定例会」
- 12 月 10 日 (木) 10:00～ 水戸市福祉ボランティア会館 (ミオス) 視聴覚 メンズピア「反省と次年度計画」
- 〃 10:00～ 水戸市大塚町 1865-31 cafe カワマタ「橋本実と♪歌の集い」
- 〃 13:00～ しもだて地域交流センター (アルテオ) レディスピア県西「定例会」
- 令和 3 年 1 月 14 日 (木) 時間未定 水戸市福祉ボランティア会館 (ミオス) メンズピア「新年会」
- 〃 時間未定 〃 レディスピア県央「新年会」
- 〃 時間未定 しもだて地域交流センター (アルテオ) レディスピア県西「新年会」

編集後記

フィジカル・ディスタンス (身体的距離) の確保、手洗い、手指消毒・咳エチケット。毎日の体温測定や、風邪症状がある場合の積極的な自宅療養なども『新たな日常』となりつつある。思い浮かぶ対策全てを実践するには難しいこともあるだろうが、自分自身や大切な人を守る為にも、できる限り生活に取り入れたいと思う。しかし、フェイスシールド越しのコミュニケーションに、戸惑いとある種の寂しさを覚えるのは私だけだろうか・・・。

子供達の給食は同じ向きに机を並べ、楽しく会話することもままならず黙々と食べ、自由時間もフィジカルディスタンスを保っての行動。マスク着用は必須。『新たな日常』という未来は、いったい何処へ向かって行けばいいのだろうか。(広報委員 三上 尚子)



イラスト：三上尚子

発行人 茨城よろこびの会 (がん体験者と家族の会)

会長 飯田 則子

連絡先 けんこうリンク (TEL 029-241-0011)